

・最後に重田ガバナーのまとめとして、達成可能な目標を上げて果敢に挑戦して欲しいとの要望があり、終了しました。

クラブ奉仕は会員増強と親睦が仕事であり、ロータリーの基本である事を、この地区協議会に出席して改めて確認して来ました。

クラブ奉仕部会（B） 落合益夫

当部会は	カウンセラー	パストガバナー	梶内梯三郎（新発田）
	リーダー	ロータリー情報委員長	富山富一（新発田南）
	サブリーダー	オン・ツー・グラスゴー委員長	山崎堅輔（中条）
	サブリーダー	オン・ツー・グラスゴー委員	成沢敏明（村上）
	サブリーダー	〃	小須田寿太郎（群馬境）

のもとで会が進行されました。

最初にカウンセラーより、出席の皆さんはR I 会長のテーマを実行する為に努力していただき、各ロータリーの皆さんが勉強しやすい場を設けて欲しいとの講話でした。

次にロータリーの情報の伝達は例会で、そしてロータリーの友、月信で学んで下さいとの講話でした。

山崎サブリーダーより、地区協議会の役割、国際大会の説明がありました。

成沢サブリーダーより、オン・ツー・グラスゴーの説明をされ、スコットランドのグラスゴーで国際大会が開催される旨、吉田年度のテーマである「大きな視野で世界を見つめよう」にあるように是非グラスゴーの大会に出席して下さい、との話でした。

小須田サブリーダーより、会員増強は魅力あるクラブから始まる、との話。

最後の討議では、クラブ奉仕A・Bの違い等までありました。

職業奉仕委員会 本間茂男

職業奉仕は職業倫理の向上のための委員会です。倫理向上のためのものがロータリーの「四つのテスト」であります。この「四つのテスト」をもう一度見つめ直し活動に取り入れてみたらどうでしょう。群馬県のロータリークラブでは「四つのテスト」を印刷して、中学校の生徒すべてに配布して、校内活動の倫理向上に役立たせようと計画、活動した例があります。しかし、受け取る側がどのように考えたか又問題があります。

社会奉仕部会 山本 賢

ルイス・ビセンテ・ジアイ R I 次期会長（1996-97）のメッセージ

一運命は待つものではなく、つかむものです。運命は内視すべきものではなく、達成すべきものです。新しい世紀を迎えようとしている今、私たちはロータリーの豊かな回転軸に立っています。今や大いなる、技術的、社会的変化による激動の時代です。「築け未来を行動力と先見の眼で」というメッセージを基に

・カウンセラー	パストガバナー	細渕久雄（前橋）
・リーダー		東竹 繁（新潟北）

- ・サブリーダー 人間尊重 野沢正信（新潟北）
- ・サブリーダー 中繁 基（館林西）
- ・サブリーダー 環境保全・地域発展 馬場信彦（三条南）

の皆様と共に討論された。

今年度の我々は、単年度事業ということにこだわらず長期的展望に立って各ロータリアンに次の2点に努力してほしい。その一つは人間尊重の分野では高齢化社会に向けて国内では介護保健法の成立を目ざしておる中で「プロバスクラブ」（プロバスはプロフィショナルとビジネスの合成語で、その会員は人生の達人、リタイヤされた方々が中心で、定期的に相集い、友情と親睦を深めるとともに、豊富な知識や体験を地域社会への貢献に役立てよう）今、まさにその創設、活動が求められているのではないかと、強調しておられました。

2560地区には前橋、新潟、最近では館林の3ヶ所があり、活躍中であるという報告がありました。

二つめは、環境保全、地域発展の分野では、国際ロータリーは1990-1991年度に環境保全委員会を設立して以来、「危機的な地球環境」その破壊の進行は「もう、地球を救う最後のチャンス」になりかけております。人類のみならず地球上に住むあらゆる生物の存続を危うくしている私達の「もっと豊かに、もっと便利に」「いのちよりお金」「環境より経済」……など、意識の変換を強く求められており、「環境保全に役立つ101の方法を参考にして私達ロータリアンのリーダーシップで子供たちに健康で美しい地球を残す努力を致しましょう。いや、実行しなければならないのです。

米山奨学部門 布川和雄

5月18日第1日目セミナーで米山奨学会でもある新潟の渡辺徹一先生より講演をいただきました。米山奨学は日本のロータリークラブ特有の極めて有意の制度であり高卒程度以上の私費留学生を援助するものである。日本の援助は他先進国に比べると未だ少ないのである。ちなみに、米44万人、仏14万人、独12万人、英9万人、日本5.4万人である。これにはいろいろな理由があるでしょうが、奨学金制度を含めた援助体制の不備も大きな理由の一つである。米山奨学はこれらを補っており民間の支援組織では最も多く8年度はついに1000に達しました。留学生に対する国の援助は短大、大学生141,000、大学院生184,000で有り、米山は12万と15万で有る（もちろん内容はいろいろ有りますが）、その他にも学会や研修、見学会等の費用に対して年間5万の補助の制度もあります。応募者が多いので金額を半分位に感じて人数を多くしたらという意見もありましたが、その位の金額を援助する団体は他にもたくさんあるので米山奨学は従来通り実行していこうということです。

5月19日第2日目分科会に於ては2560地区米山奨学大委員会である新津の佐々木氏がリーダーとなって主に96-97年度の目標額についての話がありました。佐々木氏は前日にもセミナーで発表され国際奉仕の最低の仕事が米山功労者、ポールハリスフェローになる事であろうと話しをされました。